

秋葉原探訪

今回から秋葉原について様々に感じたことを毎月1回程度、当社ホームページに掲載することになり、文章を書くことが苦手な小職ですが秋葉原の今昔、食、ショップ、パソコンやらの紹介をさせていただきます。

私が秋葉原に通い始めたのが中学生で、今から40数年前の頃で真空管時代の末期で小さな部品屋さんが沢山並んでおり、その店頭にはトランジスタと真空管が混在して並んでいました。

それから数年してIC(集積回路 DTL・TTL)の時代が訪れ、真空管の時代の終焉を迎え、今やパソコン関係のショップが主流を占める時代と移り変わりました。

最近ではマニアが懐古を感じてか何店か真空管を販売するショップがあるようです。但し、めっちゃくちゃに高いです。

少し、40数年前の当時の私の話に戻します。

この頃、私は小学校が中学校時代は定かではありませんが、テレビで放映されていた「ハローCQ」(確か荒木一郎さんが出演されていたと記憶しています)という連続ドラマを見て、アマチュア無線に興味を持ち電話級の免許を取りました。

いざ免許は取ったものの、無線通信機を買う金もなくメーカー製の無線機は出回っていましたが、中学生にとって高価なもので買えませんでした。

費用を得るため仕方なく、ゴルフ場のキャディとか、廃品回収業(部品を得るため)の手伝いとかのアルバイトをし、やっとメーカー製のキットを買い組立てました。

この頃は電波形式がA3からSSBのA3HとA3Jに移り変わる時でしたが、組立てた送信機はA3タイプの送信機で、送信周波数は7MHz帯、送信電力は約10Wでした。

送信機の型名は忘れましたが使用されていた終段管は6146B(GT管)か807A(キャップつきのST管)でシングル構成でした。

受信機は組立てキットで三田無線製(型名:DXCS-7)の5球スーパーヘテロダインのシングルスーパー受信機で売りはハイQのIFトランスで周波数分離度が優れていましたが、なんせ高周波増幅段がなかったため感度が悪く後に高一中二で高周波増幅1段、中間周波増幅2段構成のトリオ社製の9R59Cに入れ替えました。

ALL WAVE SUPER HETERODYNE DX-CS-7



三田無線製全波受信機



トリオ社製全波受信機

空中線は長さ7m位の丸太を近くの材木屋さんから2本買ってきてT型ダブレットを立てましたが、敷地が狭く波長($\lambda = 40\text{m}$)にあった長さ($\lambda/2$)がとれずそのまま使用していましたが、そのうち近所からBCIやらTVIの苦情が出まして2、3年で無線局の運用をやめました。当時は新宿区の下落合に住んでおりましたので、民家が密集しており、苦情が出るのは当然といえば当然でしょう。

ちなみにその頃のコールサインはJH1JIA(廃局してます)でした。

それからは音響に走り、真空管アンプやスピーカーボックスを作り始めました。アンプはメインアンプ、プリアンプ構成でイコライザは無しで、スピーカーボックスは高100cmX幅40X奥行40位の大きさでした。ボックス自体の共振点を音域外にするため中に壁にセメントを塗りつけ、重量が数十Kgになったことを思い出します。

当然、一人では持てないし、部屋の床(当時は床板が貧弱で)が抜けるんじゃないかと。メインアンプは6L6、6V6等をプッシュプルで使用して、レコードを聴いていました。

当時は色々なことをやっていましたね。今みたいに物も豊富に安価に手に入れない時代でしたので、何とか安価に目的を達成することを目標にしていました。

この辺で初回の、私が感じた約40数年の秋葉原や、経験などについての話を終わりとします。